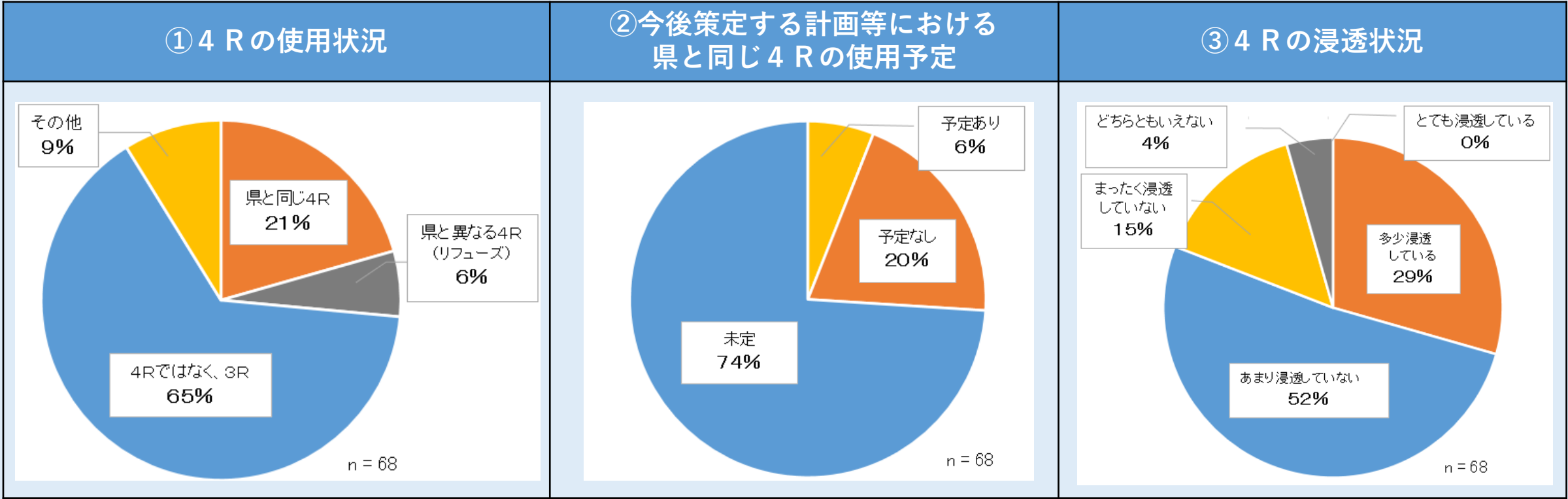


1 市町村アンケートの結果について

概 要	第1回、第2回廃棄物専門委員会における委員からの4 Rの表現に関する御意見を踏まえ、市町村廃棄物処理計画等における4 Rの使用状況等について、市町村を対象にアンケート調査を実施（期間9/30～10/8、回答率88%）
結 果	○多くの市町村においては「3 R」を使用し、県と同じ「4 R」の使用は2割程度だった。 ○今後策定する計画等における4 Rの使用予定は、7割以上が「未定」であり、割合は低いものの県と同じ「4 R」を使用するという回答もあった。



2 他都道府県の廃棄物処理計画での表現例

○他都道府県の廃棄物処理計画では、多くは「３Ｒ」を使用している一方、一部では以下の用語があった。

用 語	３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）に加わるもの
3R+リニューアブル	リニューアブル（再生可能な資源を使う）
４Ｒ	リフューズ（ごみになるものを断る）
５Ｒ	リフューズ、リスペクト（ものや人に敬意を払う）
3R+3R	リシンク（本当に必要なものかどうか考える）、リフューズ、リファイン（捨てるときに分別する）

※（ ）の用語の補足は「カンキョーダイナリー」から引用

3 事務局案

- アンケートの結果、今後策定する計画等における４Ｒの使用予定を「未定」と回答した市町村は７割以上であり、県として４Ｒの周知を強化することにより、４Ｒを市町村の計画等に反映させていくことは十分に可能であること、また、第５期計画からは、「４Ｒ」をキーワードに施策を展開してきた経過を踏まえ、引き続き「４Ｒ」を使用していきたい。
- あわせて、「４Ｒ」・「リプレイス」を県民により浸透させていくためには、専門委員会における御意見を踏まえ、長野県の取組が「３Ｒ」にとどまらないことを明らかにしていくことも必要である。
- そこで、県が実施する広報啓発においては、可能な限り「４Ｒ（３Ｒ+リプレイス）」を使用し、「リプレイス」も積極的にアピールしていく。
- なお、第６期計画の本文では、記載の煩雑さを避けるため、初出箇所（第１章 ６ 施策の方向性）において「４Ｒ（３Ｒ+リプレイス）」と記載し、以降は「４Ｒ」で記載する。